

KIDSのビブリオバトル! Q&A

<ルールについて>

【Q】なぜ「チャンプ」ではなく「チャンプ本」と呼ぶの？

【A】本と著者へのリスペクトのため、また、(負けてしまったときに) バトラー自身を否定されたように感じることを避けるためです。

ビブリオバトルでは、ゲームの最後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準にした投票を行い、「チャンプ本」を決定します。この時、決めているのは「チャンプ本」であり、「チャンプ(=人)」ではありません。ルール上も、投票しているのは「一番読みたくなった本」であり、「一番読みたい気持ちにさせられた人」ではないので、投票の結果決まるのは「一番多くの人が最も読みたいと思った本」ということになります。そういう意味でも、「チャンプ本」という言い方がふさわしいでしょう。

参照：https://note.com/com_bibliobattle/n/ne9b7933e11a1?magazine_key=m69f9ea2913ab

【Q】なぜチャンプ本を決めるの？

【A】勝敗をつけることで、たくさんの良いことがあるためです。

ビブリオバトルでチャンプ本を決めることは、すなわち勝敗がつくということです。ビブリオバトルでチャンプ本を決める理由は、他の人のためになる本を持ってくるようになることや、聞き手が真剣に聴くようになることなど、多くあります。ビブリオバトルをきっかけに、読書やコミュニケーションをより楽しめるようになってもらえたらと思います。

参照：https://note.com/com_bibliobattle/n/n33a20cd77259?magazine_key=m69f9ea2913ab

【Q】大人(指導者も含む)もバトラーとして参加していいの？

【A】大人の参加も可能です。

本教材(KIDSのビブリオバトル!)は、小学生の子どもたちを主な対象としていますが、大人ももちろん一緒にバトルに参加できます。例えば、大人だけのチームでデモンストレーション的に実施してもいいかもしれません。大人は参加してはいけないというルールはありませんし、むしろ積極的に入ることによって、子どもたちに「(ゲームのルールの中では)大人も子どもも関係ないんだ!」と実感してもらったり、上手な発表のコツを盗んでもらうといったような、学びの機会を生み出すことができます。

<進行について>

【Q】 プレゼンのために原稿を準備してもいいの？

【A】 原稿を書いたり読み上げたりすることは、ルール違反ではありませんが、必須ではありません。

レジュメやプレゼン資料を準備して臨む発表は、読み上げるだけの時間になってしまいがちです。ならばなぜ原稿を禁止していないのかというと、「原稿を読み上げるだけの発表では、聴衆の心を掴めず、チャンプ本に選ばれないことで、そのような発表は減っていくだろう」という発想に基づいています。「原稿を読み上げる方が参加の敷居が低い」と感じる人は、原稿を準備して参加しても構いませんが、ビブリオバトルはその場で生まれる言葉とコミュニケーションを大切にしているゲームです。整理されておらず、ぐだぐだな発表になってしまっても構いませんので気楽にチャレンジしてみましょう！

ただ、特に教育現場で「発表がある＝原稿を書かせなければ」と教員や指導者が反射的に捉えてしまい、全員に原稿を準備させたり先生（指導者）の評価を前提にしてしまうと、発表内容が他の参加者ではなく「先生にとっての正解」に近づいていくことになります。それではビブリオバトルの根幹である活発なコミュニケーションにつながりませんので注意してください。

参照：https://note.com/com_bibliobattle/n/nc93f673ea2e0?magazine_key=m69f9ea2913ab

<導入について>

【Q】 教育現場にビブリオバトルを導入する際のポイントは？

【A】 生徒・児童のモチベーションに配慮しながら行うことです。

授業へのビブリオバトルの導入は、参加を「強制」する要素が伴うため、サークルなどで行うビブリオバトルよりも、生徒・児童のモチベーションに配慮する必要があります。先生は「どうやって生徒・児童に自発的な気持ちで参加してもらうか」を意識しなければなりません。しかし、自発的に参加する気持ちになってもらうには、先生がビブリオバトルに対する理解を深め、その上で児童への効果的なアプローチをすることが求められます。

それを解決する有効な手段の一つとして、「導入時に先生同士でビブリオバトルを行い、生徒・児童に投票してもらうこと」があります。ビブリオバトルの流れやルールが子どもたちに伝わり、かつ先生自身のビブリオバトルへの理解がぐっと深まります。

もし何らかの事情で先生同士のビブリオバトルを行うことが難しい場合、ぜひ「KIDSのビブリオバトル！」の活用をご検討ください。個性的なキャラクターたちによるインストラクションで参加へのモチベーションを高めつつ、ルールに則って楽しくビブリオバトルを体験できます。もちろん、導入する先生がビブリオバトルの魅力や特徴、ルールなどについて理解し、正しく実施することができれば、多くの生徒・児童の読書体験やコミュニケーションの経験をさらに豊かにしてくれるでしょう。

参照：https://note.com/com_bibliobattle/n/n67e3aff1006d?magazine_key=m69f9ea2913ab